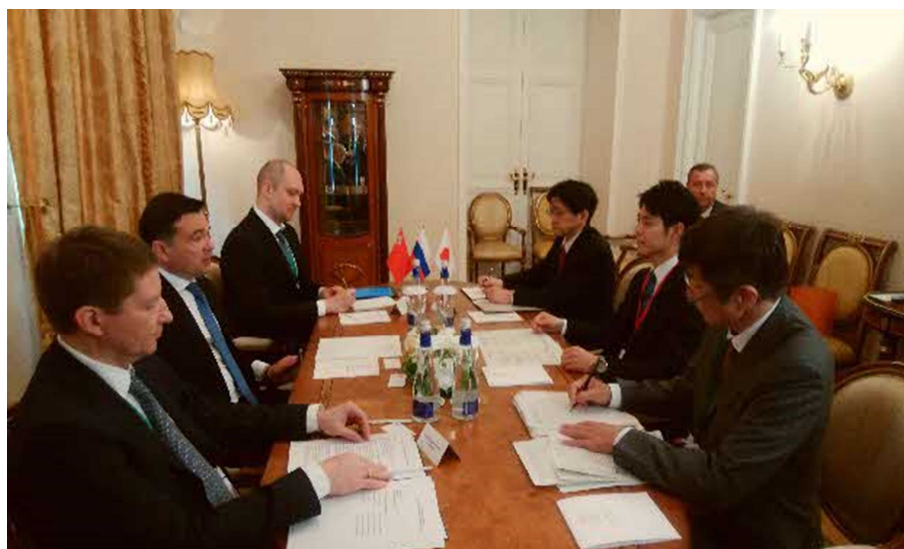


北海道とロシア



北海道

(令和2年4月現在)

目 次

【本 編】

第 1 章 ロシアの各地域の概要

- 1 ロシア極東 3 地域¹の概要 -----3
- 2 欧露部 2 地域²の概要 -----6

第 2 章 交流のあゆみと施策

- 1 交流のあゆみ -----7
- 2 北海道のロシアとの交流施策 -----10
- 3 北海道サハリン事務所 -----14
- 4 関係機関と交流拠点 -----15
- 5 新たな交流発展のステージ～北海道・ロシア地域間交流推進方針-----17

第 3 章 北海道とロシアの交流

- 1 トピックス-この 1 年の主な動き-----18
- 2 経済・観光 -----20
- 3 友好親善 -----25
- 4 姉妹都市交流-----39
- 5 議会交流 -----42
- 6 医療協力 -----44

- 1 一般的に「ロシア極東地域」は、極東連邦管区の 11 連邦構成主体の地域を指します。なお、本書では、北海道と協定を締結している、「沿海地方」、「ハバロフスク地方」及び「サハリン州」の 3 地域を「ロシア極東 3 地域」と表現しています。
- 2 本書では、中央連邦管区や北西連邦管区などのロシア西側地域を「欧露部」としています。また、北海道と交流のある「モスクワ州」及び「サンクトペテルブルク市」の 2 地域を「欧露部 2 地域」と表現しています。

【資 料 編】

1	「日本国北海道とロシア連邦モスクワ州との地域間交流の開始に関する議事録」 ---	45
2	「北海道（日本）とサンクトペテルブルク（ロシア連邦）の協力発展に関する ロードマップ 事業計画」 -----	47
3	「北海道（日本）とサンクトペテルブルク（ロシア連邦）の協力発展に関する ロードマップ 活動計画」 -----	52
3	「北海道とロシア連邦極東地域との地域間協力発展プログラム」（第6期）-----	57
4	「日本国北海道とロシア連邦サハリン州との友好・経済協力に関する提携」議定書-	62
5	「日本国北海道とロシア連邦サハリン州との友好・経済交流促進プランに関する協 力覚書」 -----	65
6	「北海道とサハリン州との友好・経済交流促進プラン」 -----	66
7	サハリンプロジェクト-----	70
8	ロシア連邦の概要 -----	73
9	極東連邦管区の概要 -----	75
10	中央連邦管区・北西連邦管区の概要-----	76
11	日本・北海道とロシア経済-----	77

第1章 ロシア各地域の概要

1 ロシア極東3地域の概要

(1) 概要

ロシア連邦極東管区の中でも、沿海地方、ハバロフスク地方及びサハリン州の3地域は、北海道との関わりが深く、友好・経済交流が活発に行われている。

ロシア極東3地域の概要

	沿海地方	ハバロフスク地方	サハリン州	
面積 (万km ²)	16.5 (北海道の約2倍)	78.8 (日本の約2倍)	8.7 (北海道は8.3万km ²)	
人口 (万人) (2018(H30)1.1現在)	191.3	132.8	49.0	
行政府所在地 及びその人口 (万人) (2018(H30)1.1現在)	ウラジオストク市 60.5	ハバロフスク市 61.8	ジノハリンスク市 19.9	
首長(知事) (2020(R2).03現在)	コジェミャコ O.N (2018年12月~)	フルガル S.I. (2018年9月~)	リマレンコ V.I (2019年9月~)	
主要産業	水産加工業、非鉄金属工業、鋳業(石炭、多金属鋳)、木材産業・加工業	機械工業、金属加工業、鉄鋼業、木材産業・加工業	鋳工業(天然ガス、石油、石炭)、漁業・水産加工業、林業製紙産業、木材・紙パルプ	
産業・貿易	貿易 (2019年)	(2019年)	(2019年)	
	対日貿易(100万ドル)	432	66	1,840
	輸出(100万ドル)	1,250	547	5,630
	輸入(100万ドル)	1,580	208	306
	主な貿易品目 (2019年)	(2019年)	(2019年)	
	輸 出	鉱物性生産品、食料品(魚介類)、木材及びその製品、	鉱物性生産品、木材及びその製品、食料品(魚介類)	鉱物性生産品(燃料エネルギー)、食料品(魚介類)、機械・設備・輸送機器
	輸 入	機械・設備・輸送機器、食料品、紡織用繊維及びその製品	機械・設備・輸送機器、化学品、紡織用繊維及びその製品	機械・設備・輸送設備、卑金属及びその製品、化学品
主な貿易相手国 (2019年)	(2019年)	(2019年)	(2019年)	
	1位 中国(49.9%) 2位 韓国(15.7%) 3位 日本(15.2%)	1位 中国(39.1%) 2位 韓国(17.1%) 5位 日本(8.8%)	1位 韓国(48.4%) 2位 日本(31.1%) 3位 中国(12.7%)	
交 通	空港、港湾等	国際空港 ウラジオストク 主要港 ウラジオストク、 ホトカ、 ウラジオストク	国際空港 ハバロフスク 主要港 ワニノ	国際空港 ジノハリンスク 主要港 礼門ス、 コルサコフ、 シャフチョルスク
	日本との定期航空路	ウラジオストク~成田 ウラジオストク~新千歳(2020年2月から休止中) ウラジオストク~関西	ハバロフスク~新千歳(2011年3月から休止中) ハバロフスク~成田	ジノハリンスク~新千歳 ジノハリンスク~函館(2009年7月から休止中) ジノハリンスク~成田
	日本との定期航路	ウラジオストク~トンヘ~境港(フェリー)(2019年11月から休止中) ウラジオストク~小樽(貨物)		稚内~コルサコフ (2016年~チャーター便運航) (2019年から休止中)

(出典: JETRO、ロシアNIS貿易会、ロシア連邦統計庁、ロシア連邦税関庁)

(2) ロシア極東3地域へのアクセス



航空路

ア 定期航空路 (単位:人)

新千歳 - ユジノサハリンスク便(2001(平成13)年7月～、オーロラ航空) (人)

年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
便数	213	206	208	211	206	304	414

運航状況 5便/週(月・水・木・土・日) 使用機材 DHC8[70席]

函館 - ユジノサハリンスク便(1999(平成11)年9月～、オーロラ航空)
2009(平成21)年7月から運航休止中

新千歳 - ハバロフスク便(2010(平成22)年12月～、オーロラ航空)
2011(平成23)年3月から運航休止中

新千歳 - ウラジオストク便(2018(平成30)年12月～、ウール航空)
2020(令和2)年2月から運航休止中

イ チャーター便 (HAC, オーロラ航空, ウラジオストク航空, ダリダビア航空) (人)

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
丘珠 便数	-	-	-	2	-	-	-
函館 便数	-	-	-	-	-	-	-
新千歳 便数	208	215	170	149	163	160	147
稚内 便数	-	-	-	-	-	-	-

航路

ア 北海道・サハリン航路

稚内 - コルサコフ航路

(単位：旅客：人、貨物：トン)

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
便数	56	56	56	56	54	56	24	68	32
旅客	3,903	3,629	4,219	3,728	4,438	4,401	511	1,374	678
貨物	733.3	1,170.4	979.1	1,154.0	906.2	192.1	-	-	-

出典：ハートランドフェリー(株)、北海道サハリン航路(株)

運航状況 2015年(平成27年)9月ハートランドフェリー(株)運航撤退。

2016年(平成28年)から2018年(平成30年)まで北海道サハリン航路(株)及びSASCOによりチャーター船(客船)を運航。2019年(令和元年)運航休止

「小樽～ホルムスク航路」

運航状況 2005年(平成17年)8月から運航休止中。

イ ナホトカ航路(商船三井・FESCO)

(単位：トン)

年	2013	2014	2015
貨物	10,790	21,330	10,080

出典：北海道港湾統計年報

運航状況 2013年(平成25年)4月より運航開始(隔週1便)。

2015年(平成27年)10月から運航休止中。

使用船舶 KATRINA

(苫小牧～横浜～名古屋～神戸～門司～伏木富山～ホストマイ～ウジノ木～苫小牧)

ウ ウラジオストック航路(NAVIS SHIPPING)

(単位：トン)

年	2013	2014	2015	2016	2017
貨物	3,800	19,730	13,210	16,190	21,060

出典：北海道港湾統計年報

運航状況 2013年(平成25年)10月より運航開始(月2～3便)。

使用船舶 MOMA、ELGA、INDIGIRKA

(ウジノ木～小樽～伏木富山～ウジノ木)

2 欧露部 2 地域の概要

(1) 概要

欧露部の中でも、モスクワ州やサンクトペテルブルク市の 2 地域とは、2018 年(平成 30 年)5 月に知事同士が交流の本格化に合意し、近年、北海道と友好・経済交流が活発に行われている。

欧露部 2 地域の概要

	モスクワ州	サンクトペテルブルク市	
面積 (万 km ²)	4.4 (北海道は 8.3 万 km ² 北海道の約半分)	0.1 (札幌市は 0.1 万 km ² 札幌市の約 1.2 倍)	
人口 (万人) (2018(H30)1.1 現在)	750.3	535.2	
行政府所在地 及びその人口 (万人) (2018(H30)1.1 現在)	モスクワ市 1,250.6 州都であるがモスクワ州に属さず	サンクトペテルブルク市 535.2	
首長(知事) (2020(R2).03 現在)	ヴォロビヨフ A.Y (2013 年 9 月 ~)	ベグロフ A.D (2019 年 9 月 ~)	
主要産業	化学・石油化学、鉄・非鉄、エンジニアリング、金属加工、繊維、食品、木材加工	輸送機器、電子機器、光学機器、食品、造船業	
産業・貿易	貿易 (2019 年)	(2019 年)	
	対日貿易(100 万ドル)	671	437
	輸出(100 万ドル)	2,140	9,200
	輸入(100 万ドル)	8,640	7,140
	主な貿易品目	(2019 年)	(2019 年)
	輸 出	食料品(野菜、酒類、たばこ) 鉱物性生產品、化学製品、プラスチック製品 機械・設備、車両	鉱物性生產品(燃料エネルギー) 機械・設備
輸 入	機械・設備、車両、食料品(野菜、酒類、たばこ) 紡織用繊維及びその製品	機械・設備・輸送設備、食料品(野菜)	
交 通	主な貿易相手国 (2019 年)	(2019 年)	
		1 位 中国 (19.1%) 2 位 ベラルーシ (9.3%) 3 位 ドイツ (7.2%) 5 位 日本 (6.2%)	1 位 オランダ (15.6%) 2 位 中国 (15.1%) 3 位 ドイツ (8.2%) 10 位 日本 (2.7%)
	空港、港湾等	国際空港 ト・モシ・ド・ラ・ヴォ シ・エ・レ・メ・イ・ヴォ ラ・ヌ・ヴォ 主要港 -	国際空港 フ・ル・コ・ヴォ 主要港 サ・ク・ト・ペ・テ・ル・ブ・ル・ク
	日本との定期航空路	モスクワ ~ 羽田	なし
	日本との定期航路	なし	

(出典：ロシア連邦税関庁、在サンクトペテルブルク総領事館、JBIC、ロシア連邦統計庁)

第2章 交流のあゆみと施策

1 交流のあゆみ

北海道は、1990年6月に「日本国北海道とソ連邦ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国との友好的なパートナーシップに関する合意」を締結し、その後1992年4月に沿海地方、ハバロフスク地方及びサハリン州の3地域との間で「北海道とロシア連邦極東地域との経済協力プログラム」(第1期)を策定。およそ5年ごとに見直しを行いながら極東3地域との幅広い交流を行っている。2018年7月には人的交流を新たに加え、「北海道とロシア連邦極東地域との地域間協力発展プログラム」として第6期となる現行のプログラムを策定した。

サハリン州との間では、1998年11月に「北海道とサハリン州との友好・経済協力に関する提携」に合意し、2000年8月には、この提携に基づき両地域の経済交流を促進するため「北海道とサハリン州との経済交流促進プラン」を策定。およそ5年ごとに見直しを行っている。2008年10月には、友好提携10周年を契機として新たに友好分野を加えた「北海道とサハリン州との友好・経済交流促進プラン」を策定し、提携20周年に当たる2019年2月には、現行の第4期目となるプランを策定。さらなる交流の拡大を図っている。

欧露部とは、2017年から日露首脳会談や欧露部との知事会談、ロシア連邦政財界要人との関係構築などを契機として交流検討を進め、2018年5月にサンクトペテルブルク知事、モスクワ州知事と個別の知事会談を行い、それぞれの地域と本格的な交流を開始することで合意した。これら欧露部の2地域とは「ロードマップ」などに基づき、継続的・安定的に交流を推進していく。

また、2015年に5月にサハ共和国と副知事間で「日本国北海道とロシア連邦サハ共和国との相互理解に関する覚書」を締結した。

〔北海道とロシア連邦との友好・経済交流に関する取組〕

年	主な取組
1990年	・日本国北海道とソ連邦ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国との友好的なパートナーシップに関する合意
1992年	・北海道とロシア極東地域との経済交流推進のための常設合同委員会の設置(定例会議の開催) ・「北海道とロシア連邦極東地域との経済協力プログラム」(第1期)策定
1994年	・函館 - ユジノサハリンスク定期航空路線開設(2009年7月以降運休) ・(社)北海道貿易物産振興会ユジノサハリンスク事務所開設
1995年	・稚内 - コルサコフ間、小樽 - ホルムスク間定期航路開設 (小樽-ホルムスク間は、2005年8月以降運休)
1997年	・北海道・サハリン州両知事会談の定期化合意 ・「北海道とロシア連邦極東地域との経済協力プログラム」(第2期)策定
1998年	・北海道・サハリン州知事会談(ユジノサハリンスク市) ・北海道・サハリン州知事会談(札幌市)

第2章 交流のあゆみと施策

	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道・サハリン州知事会談（ユジノサハリンスク市） ・「北海道とサハリン州との友好・経済協力に関する提携」合意
1999年	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道・サハリン州知事会談（札幌市）
2000年	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道・サハリン州知事会談（ユジノサハリンスク市） ・「北海道とサハリン州との経済交流促進プラン」策定
2001年	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道・サハリン州知事会談（札幌市） ・北海道・サハリン州知事会談（ユジノサハリンスク市） ・北海道サハリン事務所開設 ・北海道ビジネスセンター開設（2010年12月に廃止） ・新千歳 - ユジノサハリンスク定期航空路開設
2002年	<ul style="list-style-type: none"> ・「北海道とロシア連邦極東地域との経済協力発展プログラム」（第3期）策定 ・北海道・サハリン州知事会談（ユジノサハリンスク市） ・北海道・サハリン州知事会談（ユジノサハリンスク市）
2004年	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道・サハリン州知事会談（札幌市）
2006年	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道・サハリン州知事会談（ユジノサハリンスク市） ・在北海道札幌サハリン州代表部の開設
2008年	<ul style="list-style-type: none"> ・「北海道とロシア連邦極東地域との経済協力発展プログラム」（第4期）策定 ・知事のロシア極東3地域訪問 ・北海道・サハリン州知事会談（札幌市） ・北海道・沿海地方知事会談（ウラジオストク市） ・北海道・ハバロフスク地方知事会談（ハバロフスク市） ・北海道・サハリン州知事会談（ユジノサハリンスク市） ・「北海道とサハリン州との友好・経済交流促進プラン」策定
2010年	<ul style="list-style-type: none"> ・日露知事会議（モスクワ市） ・北海道・サハリン州知事会談（モスクワ市） ・北海道・ハバロフスク地方知事会談（モスクワ市） ・北海道・沿海地方知事の会談（ウラジオストク市）
2013年	<ul style="list-style-type: none"> ・「北海道とロシア連邦極東地域との経済協力発展プログラム」（第5期）策定 ・サハリン州投資フォーラム（東京） ・北海道・サハリン州知事会談（東京） ・北海道・サハリン州知事会談（ユジノサハリンスク市） ・知事のサハリン訪問（友好・経済協力提携15周年記念） ・新たな「北海道とサハリン州との友好・経済交流促進プラン」策定 ・サハリン州主催「サハリン州ビジネスミッション in 北海道」（札幌市） ・北海道・サハリン州知事会談（札幌市）

第2章 交流のあゆみと施策

2014年	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道・サハリン州知事会談（札幌市） ・北海道・沿海地方知事会談（ウラジオストク市）
2015年	<ul style="list-style-type: none"> ・サハ共和国訪問団の来道（札幌市）。「日本国北海道とロシア連邦サハ共和国との相互理解に関する覚書」の締結。 ・北海道・サハリン州知事会談（ユジノサハリンスク市） ・オフィスビル「北海道センター」竣工、「北海道サハリン事務所」移転（北海道センター）、「北海道ショールーム」開設、「北海道経済交流支援センター」開設
2016年	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道・サハリン州知事会談（札幌市） ・北海道・サハリン州知事会談、北海道知事・サハ共和国首長会談 ・北海道知事の日露首脳会談（ワーキングランチ）出席、北海道・サハリン州知事会談（東京）
2017年	<ul style="list-style-type: none"> ・「露日ビジネスカウンスル」北海道訪問団の招へい ・北海道・サハリン州知事会談、北海道・沿海地方知事会談
2018年	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシア連邦院議員訪問団の来道。北海道知事と会談。 ・北海道知事の「サンクトペテルブルク国際経済フォーラム」（サンクトペテルブルク）への出席、北海道・サンクトペテルブルク知事会談、北海道・モスクワ州知事会談、北海道・サハリン州知事会談 ・北海道・サンクトペテルブルク知事会談（札幌市） ・「北海道とロシア連邦極東地域との地域間協力発展プログラム」（第6期）策定 ・北海道知事・サハ共和国首長会談（札幌市）
2019年	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道・サハリン州知事会談（ユジノサハリンスク市）新たな「北海道とサハリン州との友好・経済交流促進プラン」策定 ・北海道・沿海地方知事会談（ウラジオストク市） ・日露知事会議（モスクワ市）への出席、北海道・沿海地方知事会談、北海道・ハバロフスク地方知事会談、北海道・サンクトペテルブルク知事会談、北海道・モスクワ州知事会談

第2章 交流のあゆみと施策

2 北海道のロシアとの交流施策

(1) 交流のフレーム

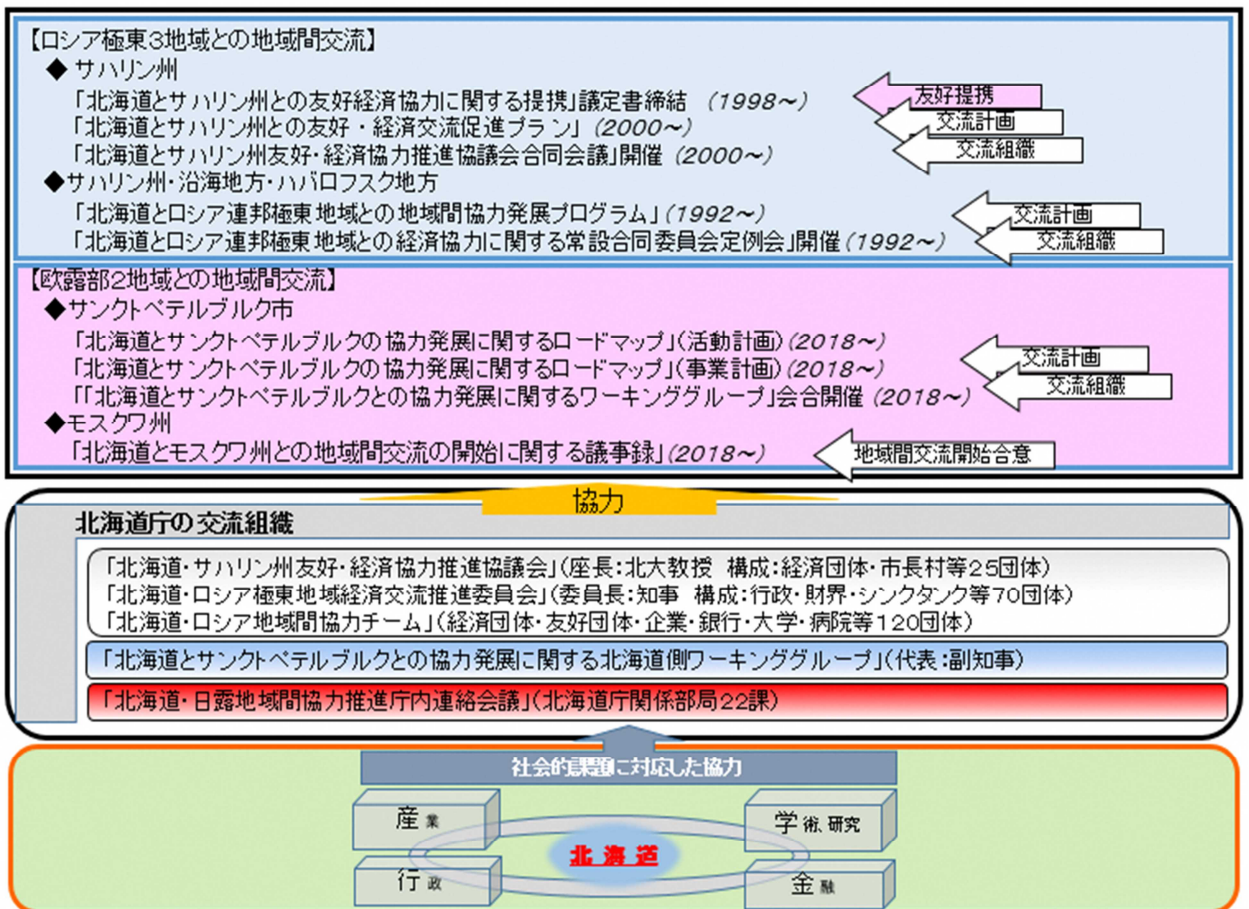
北海道とロシア極東3地域の交流を推進するため、4地域の官民からなる「北海道とロシア極東地域との経済交流推進のための常設合同委員会」を設置し、その北海道側委員会として「北海道・ロシア連邦極東地域経済交流推進委員会」を設置している。さらに、同委員会の下にロシアとの幅広い交流を図るため、ロシアビジネスに関心のある企業、団体、個人事業主等による「北海道・ロシア地域間協力チーム」を設置し、情報交換やミッションへの参加募集などを行っている。

サハリン州とは、「北海道・サハリン州友好・経済協力推進協議会」を北海道、サハリン州がそれぞれ設置し、定期的に両者で合同会議を開催して交流を推進していくこととしている。

さらに、サンクトペテルブルク市との間で合意した「協力発展に関するロードマップ」の協力内容を具体化していくため、両地域の副知事を代表とするワーキンググループを設置している。

また、道庁内におけるロシアとの交流や協力を推進するための情報共有や連絡調整を図るため、関係部署からなる「北海道・日露地域間協力推進連絡会議」を設置している。

北海道とロシアとの地域間交流のフレーム



第2章 交流のあゆみと施策

総合政策部（国際局国際課ロシア交流係）

事業名	事業概要	派遣・受入等実績
国際交流推進費 (サハリン州等ロシア極東地域友好・経済協力推進事業費)	「北海道とサハリン州との友好・経済協力に関する提携」及び「北海道ロシア連邦極東地域との経済協力発展プログラム」に基づき、ロシアとの一層の友好関係の促進と互恵的な経済協力の拡大を図る。	
(交流協力推進事業)	サハリン州との提携及び極東地域との経済協力発展プログラムに基づいて行われる友好・経済協力事業の基本的な方針等策定 【サハリン州との提携に基づく会議等】 ・両知事定期会談 ・協議会合同会議（年1回） 【極東3地域との経済協力発展プログラムに基づく会議等】 ・常設合同委員会定例会議（年1回） ・常設合同委員会分野別部会（年1回） 【サハリンプロジェクト関連】 ・ロシアビジネス意見交換会（道サハリン事務所長報告）	・2月(イジノカリスカ) ・10月(札幌市) ・未実施 ・10月(札幌市) ・7月(札幌市)
(友好理解促進事業)	北海道とサハリン州をはじめとするロシア極東地域の広範な層の住民が相互理解を深める事業の実施及び支援	
(北海道・ロシア極東交流事業費補助金)	北海道とロシアとの友好親善、相互理解を促進するため、ロシア極東地域との友好親善と協力に関する交流事業に助成する。 ・青少年「体験・友情」の船(翼) ・北海道・サハリン州市民交流会議	・7-8月 (イジノカリスカ市) ・11月 (イジノカリスカ市)
(サハリン事務所維持運営費)	北海道サハリン事務所の維持運営	
(北海道・ロシア連邦地域間協力キックオフ事業)	2016年(平成28年)12月の日露首脳会談、サハリン州知事との会談等の結果を踏まえ、ロシア極東地域との交流の深化に加え欧露部等との継続的な交流に取り組み、日露の幅広い関係強化と更なる地域間交流の拡大につなげる。 ・欧露部等との交流の展開 ・サハリン州・ロシア極東大陸部との交流の深化・拡大 ・サハリン州と黒竜江省との3地域交流の展開	

第2章 交流のあゆみと施策

総合政策部（交通政策局交通企画課）

事業名	事業概要	派遣・受入等実績
北海道・ロシア極東間定期航路対策費	<p>サハリン州をはじめとするロシア連邦極東地域との人的・物的交流を促進するため、北海道とサハリン州を結ぶフェリー定期航路の永続的な発展と航路の拡充等を図る。</p> <p>道や関係自治体、経済界で構成する日ロフェリー定期航路利用促進協議会を通じて、サハリン側協議会と利用促進策を話し合う「日ロフェリー利用促進合同会議」の開催や航路の利用促進・PR事業を実施。</p>	<p>・「日ロフェリー利用促進合同会議」 (2020年(令和2年)2月、サハリン州)</p>

環境生活部（北海道博物館）

事業名	事業概要	派遣・受入等実績
「北東アジアの中の北海道」研究プロジェクト	<p>友好・姉妹州の博物館との間で、共通のテーマを設け、隔年で相互の研究者を派遣するなど、それぞれの地域の自然・歴史・文化について理解を深めるための共同研究・博物館交流を実施（平成27～令和元年度）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣・招へい先：サハリン州郷土博物館 ・2016年（平成28年）2月にユジノサハリンスク市で調印 ・2016年（平成28年）10月に郷土博物館より研究者2名招へい。 ・2017年（平成29年）8月に北海道博物館より研究者2名派遣 ・2018年（平成30年）7～8月に郷土博物館より研究者2名招へい。 ・2019年（令和元年）10月に北海道博物館より研究者2名派遣

第2章 交流のあゆみと施策

保健福祉部（地域医療推進局地域医療課）

事業名	事業概要	派遣・受入等実績
公益信託北海道・ロシア極東医療交流基金（信託基金対応）	北海道とロシア極東地域の医療技術の向上と友好親善を図るため、サハリン州の医療技術者の受入研修や医療シンポジウムの開催等を行う。 基金は、平成2年、サハリン州から火傷を負ったコンスタンチン君を札幌医科大学にて緊急搬送し治療を行った際の義援金を基にして、両親からの申し出により創設。現在まで運用されている。	・平成29年度は、サハリン州からロシア人医師1名を北海道大学及び札幌医科大学に受入れて研修を実施。 (平成29年2月17日～3月3日)

道議会事務局（総務課）

事業名	事業概要	派遣・受入等実績
ロシア連邦サハリン州議会との相互交流事業	「北海道議会（日本）とサハリン州議会（ロシア）の協力に関する協定」に基づく相互交流事業。 双方、隔年で訪問しており、令和元年度は、サハリン州議会代表団が来道。	受入：サハリン州議会（15名） 時期：2019年（令和元年）7月24日～7月27日

水産林務部（水産局漁業管理課）

事業名	事業概要	派遣・受入等実績
北海道ロシア水産交流推進事業	国際漁業の新たな展開やロシアにおける急激な情勢変化に対応するため、ロシアとの交流事業等を行う。	
職員相互派遣	サハリン州政府職員と道水産林務部職員の相互派遣研修を行う。	・派遣：北海道（1名） ・時期：2018年（平成30年）8月23日～30日 ・受入：サハリン州（1名） ・時期：2018年（平成30年）9月29日～10月6日

教育庁（学校教育局高校教育課）

事業名	事業概要	派遣・受入内容等実績
語学指導等外国青年招致事業（ロシア）	日本語を習得したロシア人教員を受け入れ、高等学校におけるロシア語指導を行う。	・2011年（平成23年）8月から、根室市内の道立高等学校にロシア語指導助手が着任。
ロシア人美術家によるワークショップ	ロシア芸術家同盟に登録されたサハリン在住の芸術家2名を招聘し、高等学校における絵画のワークショップを行う。	・2019年（令和元年）9月24日、札幌厚別高校にて実施。

第2章 交流のあゆみと施策

3 北海道サハリン事務所

北海道とサハリン州との交流事業の展開により友好・信頼関係が構築される中、北海道の直轄事務所として州政府機関との信頼関係を強化し、正確・迅速な情報収集を行い、交流をより活発にさせるための拠点として、2001年（平成13年）1月1日、ユジノサハリンスク市に設置した。2015年（平成27年）11月、「北海道センター」へ事務所を移転するとともに、事務所に隣接して「北海道経済交流支援センター」を開設した。

（1）業務内容

- ・道行政の推進に必要な州行政府との連絡及び調整に関すること
- ・友好交流に係る調査及び支援に関すること
- ・経済交流に係る調査及び支援に関すること
- ・各種情報の収集及び提供並びに北海道の情報発信に関すること
- ・その他ロシア連邦極東地域との交流に関すること

（2）スタッフ

日本人スタッフ：3名（所長1名、主査2名　うち1名は民間企業から派遣）

ロシア人スタッフ：3名（通訳2名、経理員1名）

（3）所在地（2015年11月9日移転）

ユジノサハリンスク市コムニスチチェスキー通り18「北海道センター」11（1階）

（693000, Россия, Сахалинская область, г.Южно-Сахалинск, пр. Коммунистический, 18, оф.11）

電話：+7 - 4 2 4 2 - 4 5 - 7 5 - 6 0

F A X：+7 - 4 2 4 2 - 4 5 - 7 5 - 6 3

E - m a i l：hokkaido@snc.ru

（4）2019年度の業務実績

現地情報の収集・提供	152件
北海道情報の発信	19件
各種交流事業の仲介	199件



（5）ホームページ

<http://www.pref-hokkaido.ru/inform.htm>（ロシア語）

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/russia/russia/r-yuzhno/jimusho_index.htm

第2章 交流のあゆみと施策

4 関係機関と交流拠点

(1) 関係機関と交流拠点

ロシア極東地域との交流促進のために、次の交流拠点・関係機関等が設置されている。

在ユジノサハリンスク日本国総領事館
2001年(平成13年)1月に開設。日本とサハリンの関係を一層強化するため、文化活動や広報を通じて、サハリンの方々の日本への理解を深め、相互理解の促進を行っている。
稚内市サハリン事務所
2002年(平成14年)4月に開設。情報収集や行政府との連絡調整、稚内市やサハリン航路のPRなどを行っている。
北海道銀行ユジノサハリンスク駐在員事務所
2009年(平成21年)3月に開設。ロシア極東地域との貿易に際しての情報提供・進出支援ニーズへの対応を行っている。
北海道銀行ウラジオストク駐在員事務所
2014年(平成26年)3月に開設(道職員派遣)。ロシアに進出を検討している、あるいは既に進出している取引先に対し、支援を行っている。 また、北海道は、市場ニーズやビジネス情報の収集、商談のサポート等、道内企業のロシア極東大陸部との事業展開を支援するため職員を派遣している。
日本センター(極東ではウラジオストク、サハリン、ハバロフスクに設置)
日本政府は、1994年以降、ロシアの市場経済改革支援の一環としてロシア連邦内6都市に日本センターを設置し、将来のロシア経済を担う人材を育成するため、経営関連講座・日本語講座等様々な技術支援や、ロシアとのビジネスについて豊富な経験を有する各日本センター所長が企業からの相談に応じている。

第2章 交流のあゆみと施策

(2) 在札幌サハリン州代表部

2005年(平成17年)8月、北海道におけるサハリン州代表部の開設に向けた支援について合意し、2006年(平成18年)9月、「在札幌サハリン州代表部」が開設された。なお、2015年(平成27年)3月以降、サハリン州政府は常設職員を配置しておらず、札幌市内に代表部の事務所機能を有する情報センター設置を検討しているが実現していない。

在札幌サハリン州代表部の概要	
経緯	<p>2001年 北海道サハリン事務所開設。</p> <p>その際、ファルフトジノフ知事が北海道への設置を表明。</p> <p>2005年8月 高橋知事サハリン訪問。知事会談を行い覚書に署名。</p> <p><覚書より抜粋></p> <p>8. 両地域間の連携を強化するため、サハリン州は在北海道サハリン州政府代表部開設の可能性を検討し、北海道はこれに協力する。</p> <p>2006年4月 札幌市にサハリン州代表部を開設するための覚書に両知事が署名。</p> <p>2006年9月21日 在札幌サハリン州代表部開設 (札幌市北区北7条西4丁目3番地1 新北海道ビルディング内)</p> <p>2015年3月 駐在職員2名が帰国し、出張により業務に対応。</p>
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易・経済、科学技術、観光、人文社会、文化の分野のサハリン州と北海道の協力やその他の協力の維持(2006.4.20付けサハリン州決定より抜粋)
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・貿易、科学技術、文化交流などのサハリン州と本道関係先の協力関係の推進 ・展示会、文化祭の開催、企業交流関係の構築、代表団の受入準備等(なお、政治・外交に係る業務は行わない。)

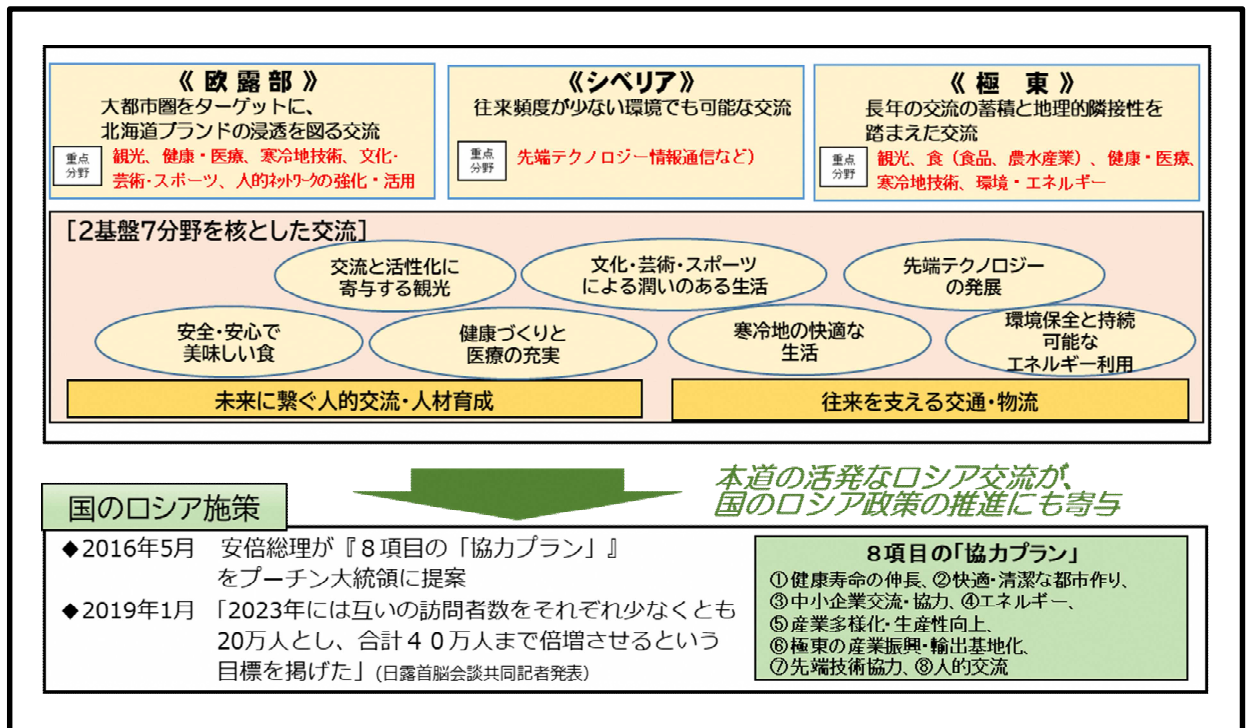
第2章 交流のあゆみと施策

5 新たな交流発展のステージ～北海道・ロシア地域間交流推進方針

2019年（令和元年）5月に開催された「日露知事会議」において、知事がこれまでの5つの協力パッケージ（「食の安全・安心と健康・長寿」、「寒冷地の快適な生活の確保」、「自然環境の保全」、「エネルギーの地産地消」、「直行航空路線の開設」）のうち「直行航空路線の開設」を「人的交流の拡大」に置き換え、新5つの「協力パッケージ」として、ロシア連邦との地域間交流を進めていくことを公表した。

さらに、これまでの極東地域との交流の蓄積や欧露部との交流の動きによるロシア地方政府や中央政財界の本道への関心の高まり、日露地域・姉妹都市交流年を契機とした両国の地域間交流の高まりを踏まえ、有識者に意見を伺いながら今後のロシアとの地域間交流を戦略的に推進するための基本方針「北海道・ロシア地域間交流推進方針」（案）を2020年（令和2年）3月に作成した。

北海道・ロシア地域間交流推進方針（案）の概要



第3章 北海道とロシアの交流

1 トピックス～この1年の主な動き（北海道とロシア関係）

（平成31年4月～令和2年3月）

< 5月 >

日露知事会議（モスクワ）

沿海地方知事、ハバロフスク地方知事、モスクワ州知事、サンクトペテルブルク市臨時知事代行との知事会談（モスクワ）

第20回日本語スピーチコンテスト開催（サハリン）

< 6月 >

サハ共和国代表団来道（札幌）

YOSAKOI ソーラン祭りへのロシアサハリンチームの参加（札幌など）

樺太豊原会慰霊祭（サハリン）

< 7月 >

北海道・ハバロフスク合同医療シンポジウム（当別）

アムール州官民ミッション団来道（札幌）

サンクトペテルブルク市副知事来道（札幌）

国際遠泳リレー「太陽と友情に向かって：白樺から桜まで」（サハリン～稚内）

青少年サハリン・北海道「体験・友情」の翼（サハリン）

< 8月 >

稚内コルサコフ国際定期航路利用促進合同会議・友好都市経済交流会議（サハリン）

サハリン州における着物交流イベント（サハリン）

< 9月 >

三地域（道・黒竜江省・サハリン州）の美術家交流（札幌）

< 10月 >

北海道観光セミナー（ウラジオストク）

サハリン州内企業による「北海道アグリ・フードプロジェクト2019」への出展（札幌）

「北海道とロシア連邦極東地域との経済協力に関する常設合同委員会」第13回分野別部会」開催（札幌）

「北海道・サハリン州友好・経済協力推進協議会第19回合同会議」開催（札幌）

< 11月 >

士別市ウエイトリフティング選手団のサハリン訪問（サハリン）

「ペテルフード2019」への出展（サンクトペテルブルク）

第3章 北海道とロシアの交流

「第14北海道・サハリン州市民交流会議」開催（サハリン）
北海道とサンクトペテルブルク市との協力発展に関する第3回ワーキンググループ
会合（サンクトペテルブルク市）
アムール州第一副首相来道（札幌）
サハリン州保健大臣来道（札幌）
サハリンDAY（札幌市）
第51回全道ロシア語弁論大会（札幌市）

< 12月 >

北海道産食品等の商談会（ウラジオストク）
北海道フェア（サハリン）
「新年の贈り物2020」への出展（ハバロフスク）

< 1月 >

人形浄瑠璃公演（サンクトペテルブルク）
北海道産食品等の商談会「美人ランチ」を実施（ウラジオストク）

< 2月 >

北海道選手団（空手・相撲）のモスクワ州訪問（モスクワ州）

第3章 北海道とロシアの交流

2 経済・観光

(1) あゆみ

北海道とロシア連邦極東地域とは、古くは山丹交易をはじめ松前藩による貿易が行われていた。

明治時代以降、北洋漁業や林業・パルプ産業などを中心に、南樺太との往来が自由に行われてきたが、第二次世界大戦後は、日本政府がサンフランシスコ平和条約により南樺太のすべての権利・権限及び請求権を放棄したことによりサハリンとは限られた範囲での交流が続けられてきた。

(2) 概要

1990年(平成2年)、北海道知事を団長に行政や産業経済団体の代表により構成された北海道代表団が、ロシア連邦共和国閣僚会議の招待によりモスクワを訪問し、経済をはじめとする幅広い分野で北海道とロシアとの相互の協力関係を発展させることで合意した。

1992年(平成4年)には、前記の合意に基づき「北海道とロシア連邦極東地域との経済協力に関する常設合同委員会」を設置し、両地域の一層の経済交流の促進を目的とし、具体的な経済協力案件を掲載した「北海道とロシア連邦極東地域との経済協力プログラム」を策定。以降、おおよそ5年ごとに見直しながら、本プログラムに基づき極東地域との経済交流を進めている。

また、観光分野では、北海道をはじめ市町村や民間の交流団体が、様々な分野で交流を行っており、特に、1991年(平成3年)のソビエト連邦崩壊以降は交通アクセスの整備とともに、観光やレジャーを目的としたツアーなどの旅行者も増加している。

2011年(平成23年)10月、北海道スキープロモーション協議会がユジノサハリンスク市においてスキープロモーションやセミナー商談会を実施。さらに日ロフェリー定期航路利用促進協議会では、「稚内 コルサコフ航路PRリーフレット」などを作成し、首都圏、道内及びサハリンの観光事業者などに配布したほか、サハリン州でテレビトップCMを放送するなど、航路の利用促進に向けた取組を行った。また、2014年(平成26年)6月に実施された沿海地方への北海道経済ミッションでは、団長を務めた知事が、直行航空路線の開設と本道へのスキーリゾート、温泉リゾートなど観光PRを含むプレゼンテーションを実施している。

宗谷地域では、地理的、歴史的な背景からサハリン州と様々な分野で交流が進められており、宗谷総合振興局ではこれまで、国際貿易セミナーの開催や現地物産展での食や観光のPRを行ってきた。近年では、若い世代を含めた宗谷管内の方々にサハリン州への関心・理解を深めてもらうため、漫画小冊子『となりのサハリン』を作成したほか、2019年(令和元年)9月には、稚内北星学園大学の大学生等がサハリン州を訪問し、サハリン国立総合大学の学生との交流事業を実施している。

第3章 北海道とロシアの交流

(3) ロシアとの経済交流の主な取組

- 1993年 北海道物産市開催(ウラジオストク市)
- 1994年 サハリン日本産業見本市参加
- 1995年 ロシア極東物産展開催(小樽市)
- 2004年 経済ミッション派遣等(ユジノサハリンスク市)
- 2005年 サハリン州企業招へい、ビジネスマッチングの実施(稚内市)
- 2006年 サハリン州企業招へい、ビジネスマッチングの実施(稚内市)
- 2007年 サハリン州企業招へい、ビジネスマッチングの実施(札幌市)、
ロシア極東地域への経済調査
- 2008年 ロシア極東地域への道産食品テスト輸出・販売、見本市出品(ハバロフスク市)
ロシア極東企業招へい、道産食品ビジネスマッチングの実施(札幌市)
ロシア極東3地域での知事と経済界によるトップセールス(食、建築・土木、
観光)
- 2009年 2008年のビジネスマッチングのパートナー企業を招へい、セミナー・商談会
の
実施(札幌市)
寒冷地対策建築技術セミナーによる道内技術のPR(ウラジオストク市)
ハバロフスク地方からの建設ミッション受入(札幌市)
北海道建設業協会や旭川建設業協会等とサハリン州建設協会の技術交流等
を促進することを内容とする合意書締結
- 2010年 見本市出品による道産食品のPR(ウラジオストク市)
寒冷地対策建築土木技術に係るロシア極東地域企業の道内企業への技術
研修受入
ロシア大都市部への北海道ブランドPR事業の実施(モスクワ市)
- 2011年 道産技術・製品の商談会、常設展示の実施(ウラジオストク市)
道産食品のニーズ調査と「北海道フェア2011」を開催し、道産食品の展示・
試食・販売によるPR(サハリン州)
見本市における道産食品、寒冷地技術、環境関連技術・製品PR(モスクワ市)
- 2012年 「北海道フェア」開催
国際見本市「PRDO EXPO2013」への出展(モスクワ市)
サハリン州ビジネスミッション in 北海道の開催
- 2013年 「第17回沿海地方食品見本市」に出展(ウラジオストク市)
北海道スキープロモーション協議会(北海道は賛同自治体)がスキー客誘致
のためのプロモーション。セミナー・商談会を実施(ユジノサハリンスク市・
ハバロフスク市)
- 2014年 健康関連施設の視察等を行うモニターツアーを実施

第3章 北海道とロシアの交流

- ユジノサハリンスクでプレゼンテーション・ミニ商談会を開催
- 第12回北海道フードフェアに食品ブースを出展（札幌市）
- サハリン州ガス化・インフラ発展庁視察団が北海道を訪問
- 「ロシア沿海地方・北海道経済ミッション」がウラジオストク市を訪問
- 「北海道フェア 2014 in サハリン」を開催
- 「北海道・京都共同フェア in ウラジオストク」を開催
- 2015年 「北海道の食・観光説明会 in ウラジオストク」を開催
- 「サハリンへの通年輸出セミナー」を札幌市で開催
- 沿海地方から、旅行会社・メディアを招へいして、倶知安町及びニセコ町の観
- 光施設の視察を行うファムトリップツアーを実施
- 「第19回太平洋国際観光展(PITE)」に出展（ウラジオストク市）
- 「日本・ロシアフォーラム 2015」の「極東・地域への投資」分科会において北海道プレゼンテーションを実施（東京都）
- 「サハリン州・北海道経済ミッション」がユジノサハリンスク市を訪問
- 寒冷地園芸施設「北海道ガーデン」（植物工場）をウラジオストク市に設置
- 2016年 国際見本市「春の贈り物」に出展（ハバロフスク市）
- サハリン州漁業庁長一行の来道（中央卸売市場や水産会社を訪問）サハリン州文化・公文書大臣及び建設第一副大臣一行の来道
- サハリン州住宅・公営事業大臣代行一行の来道
- 第2回「東方経済フォーラム」への知事出席、スピーチ
- サハ共和国第一副首相一行の来道、「サハ共和国投資・観光ポテンシャルのプレゼンテーション in 札幌 2016」の開催
- プーチン・ロシア大統領の来日、北海道知事の日露首脳会談ワーキングランチ、文書交換式等への出席
- 2017年 北海道の寒冷地適応型省エネ技術の専門家及び企業関係者を派遣（ユジノサハリンスク、ウラジオストク）
- ロシア極東地域からエネルギー・省エネ等専門家を招へい
- 国際見本市「春の贈り物」に出展、商談会開催（ハバロフスク）

2018年度以降分は次に掲載

第3章 北海道とロシアの交流

(4) 過去5年間の主な取組【経済交流・観光交流】

年	月	主な取組内容
2017年度 (平成29年度)	9月	第3回「東方経済フォーラム」に北海道知事が出席し、「日露ビジネスフォーラム」でスピーチ。
	10月 12月	旭川市や稚内など道北9市と連携し、「ユジノサハリンスク道北物産展2017&北海道フェア」を開催(10月)。在ユジノサハリンスク日本国総領事館が開催する「日本文化デー」と連携し、「北海道フェア」を開催(12月)。
	12月	ハバロフスク地方政府が主催する国際見本市「新年の贈り物2018」に北海道産食品等を出展。
	12月	北海道の寒冷地適応型省エネ技術の専門家及び企業関係者を派遣し、ハバロフスク市及びユジノサハリンスク市で現地政府、企業関係者及び研究者を対象とするセミナーを実施。
	2月	ロシア極東地域からエネルギー・省エネ、廃棄物処理等の専門家を招へいし企業視察や道内専門家との意見交換会を実施。
2018年度 (平成30年度)	5月	「サンクトペテルブルク国際経済フォーラム」に北海道知事が出席したほか、「北海道セミナー」でスピーチ。
	6月	ハバロフスク地方政府が主催する国際見本市に出展。
	9月	「北海道・日露友好・経済交流サハリン訪問」に併せ、ユジノサハリンスク市にて、「第1回サハリン・北海道フェア」を開催。
	9月	第4回東方経済フォーラムの開催に併せ実施されたロシア内外の行政のパビリオン会場の設置に際し、サハリン州政府のパビリオンにて、北海道ブースを設置し、道内観光をPR。
	11月	サンクトペテルブルク総領事館と連携し、「ペテルフード2018」(食見本市)に出展。
	12月	「第2回サハリン・北海道フェア」をユジノサハリンスク市において開催。
	12月	ウラジオストク市にて、北海道産食品等の商談会を実施。
2019年度 (令和元年度)	7月	アムール州政府が農業企業などの官民ミッション団を組織して、十勝管内の農業関連企業などへの訪問事業を実施。
	10月	ウラジオストク - 新千歳便のPRを目的として、道、道観光振興機構、ウラル航空の共催により、北海道観光セミナーをウラジオストクにて開催。

第3章 北海道とロシアの交流

2019年度 (令和元年度)	10月	道内の食の見本市である「北海道アグリ・フードプロジェクト2019」にサハリン州内の3企業が出展。
	11月	アムール州政府が第一副首相を筆頭に官民ミッション団を組織して、本道の農業関連企業などへの訪問事業を実施。
	11月	「ペテルフード2019」(食見本市)に出展し、道産食品の展示、試食や手鞠寿司のデモンストレーション等を実施。
	12月	「北海道フェア」をユジノサハリンスク市において開催し、道産食材のPRを実施。
	12月	ウラジオストク市にて、北海道産食品等の商談会を実施。
	12月	ハバロフスク地方政府が主催する国際見本市「新年の贈り物2020」に北海道産食品等を出展。
	1月	ウラジオストク市にて、北海道産食品等の商談会「美人ランチ」を実施。

宗谷総合振興局(地域創生部地域政策課)

事業名	事業概要
サハリン交流 推進事業	<p>【サハリン州への大学生交流事業訪問団派遣】</p> <p>日時：令和元年9月7日～9月9日</p> <p>訪問先：サハリン国立総合大学 他</p> <p>参加者：稚内北星学園大学学生4名、北海道大学学生2名、北海学生学園大学学生2名、稚内北星学園大学教員1名、宗谷総合振興局職員3名</p> <p>内容：稚内北星学園大学、北海道大学北星学園大学から参加した学生等がサハリン州を訪問。ユジノサハリンスクやコルサコフにおいて、日本とのつながりの深い施設を訪問したほか、サハリン国立総合大学において同大学の学生との交流事業を実施。</p>

上川総合振興局・留萌振興局

事業名	事業概要
地域発海外展開 プロジェクト 発掘推進事業	<p>【招へい事業】</p> <p>日時：平成27年8月9日～13日</p> <p>場所：剣淵町、留萌市、増毛町</p> <p>内容：ウラジオストク市の食品販売会社及び旅行会社関係者2名を招へいし、地域の農水産物や加工品のロシアでの販売、観光客誘致に向け、商品の磨き上げやPRポイントなど勉強会視察を行った。</p>

第3章 北海道とロシアの交流

3 友好親善

(1) 北海道とロシア地域との友好交流

概要

1966年(昭和41年)に最初のサハリン地域(樺太)墓参が実現してから、樺太にゆかりのある道民が、縁故の人たちの慰霊のためサハリンを訪れている。

また、1990年(平成2年)6月、北海道知事がサハリン訪問の際に、サハリン残留日本人の相互扶助・自立支援を目的とした会設立の提案を行い、同年12月、「サハリン北海道人会」が設立された。また、同年、「北海道とソ連邦ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国との友好的なパートナーシップに関する合意」に署名した。

道人会は、日本への一時帰国・永住帰国への支援やサハリンにおける日本語普及のため日本語教室の運営などの事業を行っており、道としてもサハリン州との交流を促進する上で道人会の活動の活発化が重要であると位置付け、会の運営の支援を行っている。

こうした古くからの地理的、歴史的な繋がりを背景として、文化やスポーツなどの交流も進んでおり、サハリン州との間で日露文化・芸術フェスティバルの開催や冬季国際スポーツ競技大会「アジアの子どもたち」へ選手の派遣が行われている。また「ロシア語弁論大会」は開催が51回を数え、ロシアに対する理解促進に貢献している。

友好交流の主な取組

- 1993年 北海道とサハリン州の弁護士交流が開始。以来ほぼ毎年相互訪問。
- 1998年 サハリン州学生等による日本語スピーチコンテスト(毎年ユジノサハリンスク市で開催)
両地域の柔道連盟等によるスポーツ交流(毎年相互に訪問)
- 1999年 「サハリン・ウィーク」(「北海道とサハリン州との友好・経済協力に関する提携」調印1周年記念事業(道内))
青少年交流事業(毎年相互に訪問し、ホームステイ等を実施)
サハリン子供絵画展(道内各地で開催)
- 2003年 提携5周年記念として各種行事開催(道内、サハリン)
- 2006年 市民交流会議(毎年相互に開催)
- 2007年 北海道・サハリン州友好交流写真展の開催(ユジノサハリンスク市)
- 2008年 提携10周年記念として各種行事開催(道内、サハリン)北海道弁護士会とサハリン州弁護士会との間で友好協定を締結
- 2010年 両地域の演劇交流に関する協定締結
- 2013年 提携15周年記念として各種行事開催(道内、サハリン)
- 2016年 ゴートフ・ニコライ・サハリン日本協会会長の旭日小綬章受章
白畑正義サハリン日本人会(北海道人会)会長の日本国外務大臣表彰受章
- 2018年 白畑正義サハリン日本人会(北海道人会)会長の旭日双光章受章

第3章 北海道とロシアの交流

過去5年間の主な取組【友好交流】

年	月	主な取組
2014年度 (平成26年度)	5月	北海道とサハリン州政府の共催により、「第15回日本語スピーチコンテスト」をサハリン州ユジノサハリンスク市において開催。
	7月 ～ 8月	北海道ロシア極東交流事業実行委員会(事務局:北海道日本ロシア協会)とサハリン州政府等の主催による第16回青少年サハリン・北海道「体験・友情」の船が札幌市において開催。サハリン州から62名の青少年(10～21歳)及び指導者が本道を訪れ、本道の青少年76名とスポーツ、文化交流やホームステイを実施。
	8月	サハリン州行政府スポーツ委員会及びサハリン州柔道サンボクラブ協会と北海道柔道連盟会及び北海道柔道整復師会とが毎年相互に訪問・受入の交流を行っており、第16回目はサハリン州から5人の指導者の受入れ交流を実施。
	9月	北海道ロシア極東交流事業実行委員会(事務局:北海道日本ロシア協会)とサハリン州政府等の主催による第9回北海道・サハリン州市民交流会議が、「充実した生活環境を目指して～医療、教育、福祉などをめぐる諸問題～」をテーマに札幌市において開催された。北海道側から46名が、サハリン州側から27名が出席し、両地域から医療、福祉、教育などの関係者によるプレゼンテーションが行われ、共同コミュニケが採択。
2015年度 (平成27年度)	4月	北海道弁護士連合会(北方圏交流委員会)が沿海地方を訪問し、同地方の弁護士会と交流を実施。
	5月	北海道とサハリン州共催による「第16回日本語スピーチコンテスト」をサハリン国立総合大学で開催。
	5月 ～ 6月	道内ゆかりの若手美術家集団「サッポロ未来展」による展覧会がサハリン州ユジノサハリンスク市で開催。会場のサハリン州立美術館には出品者21名の作品50点が展示され、期間中の来場者は1,852人。
	7月	樺太豊引き揚げ者らでつくる樺太豊原会がユジノサハリンスク市において初の民間による慰霊祭を実施。(以降毎年)
	8月	在ユジノサハリンスク総領事館主催で、スミルヌィフ地区にある「樺太・千島戦没者慰霊碑」を訪問し、日・サハリン合同慰霊祭を実施。
	8月	北海道青少年国際交流振興会主催「北海道・サハリン相撲交流」訪問団がユジノサハリンスク市を訪問。
	9月	北海道柔道整復師会指導者がサハリンを訪問し、サハリン州柔道・サンボ連盟と「柔道指導者交流」を実施。

第3章 北海道とロシアの交流

2015年度 (平成27年度)	9月	サハリン州・極東柔道連盟、サハリン州柔道・サンボ連盟共催「嘉納治五郎師範サハリン州来島記念柔道大会」に北海道柔道連盟選手等30名が参加。(H26～毎年開催)
	11月	北海道とサハリン州との交流を広く道民に紹介する事業「サハリンDAY」を実施。道政広報コーナーにおける展示や、サハリンアンサンブル「エトノス」による公演などを実施。
	11月	北海道日本ユーラシア協会北海道連合会、サハリン州政府、北海道の共催により「第47回全道ロシア語弁論大会」を道庁赤れんがで開催。青森県や秋田県の道外からの参加者を含めた約30名が出場。
	1月	北海道相撲連盟がサハリンを訪問し、サハリン州柔道・サンボ連盟と交流。稽古指導やトーナメント戦などを実施(以降3年間毎年訪問)
	3月	劇団風の子北海道がユジノサハリンスク市を訪問し、サハリン州立劇場において「サハリン公演」を実施。
2016年度 (平成28年度)	5月	北海道及びサハリン州政府主催により、第17回「日本語スピーチコンテスト」を、ユジノサハリンスク市のサハリン国立総合大学経済東洋学大学において開催。2016年度は、「生徒・児童の部」及び「大学生・大人の部」の2部に分け、12名が参加。
	9月	サハリン残留者の慰霊及び日露双方の友好のシンボルとして、ユジノサハリンスク市に平和観音像が建立。
	11月	北海道日本ユーラシア協会北海道連合会、サハリン州政府、北海道の共催で、青森県、秋田県も含め計38名の参加により「第48回ロシア語弁論大会」を開催。弁論大会に併せ来道したサハリン州政府関係者とサハリンアンサンブル「エトノス」が市内高等学校を訪問。
2017年度 (平成29年度)	5月	北海道とサハリン州共催による「第18回日本語スピーチコンテスト」をサハリン国立総合大学で開催。児童・生徒の部7名、一般・大学生の部11名が参加。
	5月	苫小牧少年アイスホッケーチームのサハリン遠征を実施。8月にはユジノサハリンスクチームが来道し、ジュニア・アイスホッケー大会に参加。
	6月	北海道日本ロシア協会の招へいにより、第26回YOSAKOIソーラン祭りに、ロシアサハリンチーム26名が参加。参加は3年ぶり。
	6月	日露文化・芸術フェスティバル(サハリン)に北海道から32名の代表団を派遣し参加。(ジャズバンド、フェルト細工、生け花、茶道、和紙工芸・水墨画・水彩画、民謡を紹介)
	6月	北海道演劇財団が「サハリン・ランバ2017」で公演。
	9月	北海道ミニバレー協会がユジノサハリンスク市を訪問し、幼稚園児の交流試合や、大学におけるセミナー・大会参加などにより交流。

第3章 北海道とロシアの交流

2017年度 (平成29年度)	9月 ～ 11月	北海道文学館が、創立50周年を記念して、チャーホフの記録文学「サハリン島」をテーマとした特別展「チャーホフの遺産」展を開催。
	12月	北海道日本ユーラシア協会北海道連合会、サハリン州政府、北海道の共催により、青森県、秋田県も含め計38名の参加により「第49回ロシア語弁論大会」を開催。弁論大会に合わせて来道したサハリン州政府関係者及びサハリアンアンサンブル「エトノス」が、児童養護施設等を訪問。
	2月	劇団風の子北海道がサハリンを訪問し、ユジノサハリンスク、ホルムスク、ネベリスクで公演。
2018年度 (平成30年度)	5月	北海道、サハリン州、サハリン国立総合大学の共催による「第19回日本語スピーチコンテスト」をユジノサハリンスク市で開催。児童・生徒の部8名、一般・大学生の部8名が参加。
	6月	北海道日本ロシア協会の招へいにより、第27回YOSAKOIソーラン祭りに、ロシアサハリンチームが参加。
	6月	日露青年交流センター及び日本将棋連盟札幌中央支部の招へいにより、北海道サハリン将棋チェス交流訪問団が来道し、チェス・将棋大会に参加したほか、大学や企業訪問等を実施。
	8月	第20回北海道柔道連盟ジュニア・ロシア少年(指導者)親善交流事業として、サハリン州柔道・サンボ連盟会長等5名の指導者が来道し、道内で開催された柔道大会や練習風景を視察。
	9月	サハリン州立人形劇場が北海道を訪問し、札幌市、旭川市、中川町で公演。
	9月	北海道とサハリン州の友好・経済協力提携20周年を記念し、記念コンサートや北海道フェアなどをユジノサハリンスク市において開催。
	10月	北海道・サハリン州友好・経済協力提携20周年を記念し、札幌において第2回「日露文化・芸術フェスティバル」を開催。モスクワやサハリンから著名な音楽家やジャズグループ等35名を招待。
	11月	北海道・サハリン州友好・経済協力提携20周年を機に、地域間交流における女性ならではの視点や感性にあらためて着目し、両地域の更なる関係発展につなげることを目的とした円卓会議「日露地域間交流女性の活躍推進ラウンドテーブル」を開催。共同宣言「日露地域間における更なる女性活躍の推進に向けて」を採択。
	12月	「土別市・サハリンウエイトリフティング交流」として、サハリン州ウエイトリフティング選手団9名を招へいし、道内で開催された大会へのエキシビション参加や交流練習、学校訪問により交流を実施。

第3章 北海道とロシアの交流

2018年度 (平成30年度)	12月	北海道日本ユーラシア協会北海道連合会、サハリン州政府、北海道の共催により、「第50回ロシア語弁論大会」を開催。
	2月	ユジノサハリンスク市において、第1回冬季国際スポーツ競技大会「アジアの子供たち2019」が開催され、ロシアをはじめ中央アジア諸国や日本、韓国など20か国から全8競技、約1,200人の選手が参加。本道からも選手団31名を派遣。
	3月	相互に友好提携を締結している黒竜江省、サハリン州、北海道によるスポーツ分野での三地域間交流として、全日本ミニバレー協会会長、サハリン国立大学教授が、両地の関係者とともに、黒竜江省ハルビン市を訪れ、同地でのミニバレー競技の普及に向けた活動を実施。
2019年度 (令和元年度)	5月	北海道、サハリン州、サハリン国立総合大学の共催による「第20回日本語スピーチコンテスト」をユジノサハリンスク市で開催。児童・生徒の部10名、一般・大学生の部12名が参加。
	6月	北海道日本ロシア協会の招へいにより、第28回YOSAKOIソーラン祭りに、ロシアサハリンチームが参加。
	7月	寒中水泳協会(ロシアの団体)が、サハリン・稚内間を遠泳で縦断する「国際遠泳リレー『太陽と友情に向かって：白樺から桜まで』」を開催し、日露のほか中国、南アフリカなどから30名以上が参加。
	8月	北海道きもの振興会とともに、サハリン州において市民向けにきもの文化を紹介するイベントを開催。
	9月	北海道・サハリン州・中国黒竜江省の三地域交流として、美術家交流を実施し、3者共同による美術展を実施したほか、札幌厚別高校において学生向けワークショップを実施。
	11月	「土別市・サハリンウエイトリフティング交流」として、土別市のウエイトリフティング選手団をサハリンに派遣し、同州内で開催された大会に参加したほか、合同練習や学校訪問などを実施。
	11月	文化交流事業「サハリンDAY」として、サハリン芸術学校伝統歌アンサンブル「ベールィ・ローシ(白い露)」の公演をアリオ札幌にて開催。
	11月	北海道日本ユーラシア協会北海道連合会、サハリン州政府、北海道の共催により、「第51回ロシア語弁論大会」を開催。
	1月	さっぽろ人形浄瑠璃芝居「あしり座」による人形浄瑠璃公演をサンクトペテルブルク市ポリショイ人形劇場にて実施。
2月	モスクワ州プシュキノ市で開催された「第10回日本の聖ニコライ杯」に参加するため、北海道空手道連盟及び北海道相撲連盟に加盟する選手等で構成する北海道選手団を派遣。	

第3章 北海道とロシアの交流

(2) 友好交流団体間の交流

北海道とロシアとは、近年、より活発で密接な交流が行われるようになったが、道内の友好交流団体が地道な活動を継続し、文化、芸術、スポーツなど幅広い分野で行ってきた交流が、両地域の友好関係構築に大きな役割を果たしている。

主な友好団体とその取組事例

団体名	主な取組
NPO法人北海道日本ロシア協会	1972年(昭和42年)に「日ソ親善協会」として設立以来、ロシア極東地域との人的、文化、芸術、スポーツ、青少年など、幅広い友好、交流活動を推進。とりわけ、サハリン州との間では、カウンターパートナーの「サハリン日本協会」と連携しながら、「平和の船」による相互訪問をはじめ多くの事業を実施。2016年(平成28年)以降は、飛行機による訪問に変更し、事業名も「平和の翼」に改称。
北海道・ロシア極東交流事業実行委員会 (事務局:NPO法人北海道日本ロシア協会)	次代を担う青少年が交流事業を通じて相互理解と信頼関係を深めることを目的として、毎年相互に実施している『北海道・サハリン州「体験・友情」の船』や、両地域の良好な環境づくりのために、各界・各層の人々が参加し、多面的な相互交流を行うことを目的として開催している「北海道・サハリン州市民交流会議」は、両地域の友好理解の促進に重要な役割を果たしている。 2009年(平成21年)開催の市民交流会議において、北海道日本ロシア協会からYOSAKOI文化交流の実現について提案したことを契機に、翌年には、当協会の招へいにより、ロシアからは初めてとなる、サハリン州の大学生を中心としたチームの「YOSAKOIソーラン祭り」への参加が実現。(以降、2010年、2011年、2017年~2019年に参加。)
日本ユーラシア協会 北海道連合会	1958年(昭和33年)の設立以来、ロシア語などの普及啓発や日露間の友好交流に係る支援を実施しており、全道ロシア語弁論大会2018年(平成30年)で50回目を数えたほか、ロシア語講座の開設、ロシア料理講習会の実施など、ロシアの文化や言語の普及啓発を全道で推進。
(一財)北海道北方博物館交流協会	2006年(平成18年)7月に、北海道大学から無償提供のあった大型古代哺乳生物「デスモスチルス」の全身骨格レプリカの修復・組立を行い、サハリン州郷土博物館に無償提供し、同博物館で一般公開。 2008年(平成20年)には、「北海道・四季の美」展をロシア極東3地域の博物館(沿海地方アルセーニエフ郷土博物館、ハバロフスク地方グロデコ郷土博物館、サハリン州郷土博物館)で開催し、道内出身のグラフィックデザイナーの故栗谷川健一氏(1911-1999、岩見沢市

第3章 北海道とロシアの交流

	<p>出身)の北海道の風景版画(30点)と袴田睦美氏(1961-新得町出身)による北海道の植物の水彩画(20点)を展示。</p> <p>また、2013年(平成25年)には、ハバロフスク地方博物館長を招き「交流講演会」を開催し、さらに、2015(平成27年)5月には、ウラジオストクのアルセーニエフ博物館長を招き、「交流講演会」を開催。2016年(平成28年)2月18日、サハリン州郷土博物館において北海道博物館とサハリン州郷土博物館とが次期共同研究に係る覚書を署名。</p>
(公財)北海道演劇財団	<p>2010年(平成22年)2月に、サハリン州文化庁、サハリン州立文化団体「A.P.チェーホフ記念サハリン国際舞台芸術センター」との間で、相互に公演することなどを内容とする協定書を締結し、同年9月に付属劇団TPS(現・札幌座)の公演がユジノサハリンスク市で行われた。2013年(平成25年)11月、札幌市においてサハリン州のチェーホフ劇団による公演が開催されたのに続き、2015(平成27年)11月には再びチェーホフ劇団による公演が開催。</p>
稚内国際文化交流協議会	<p>2012年(平成24年)には稚内市とサハリン州ネベリスク市の高校生を相互に受け入れる青少年交流事業を開始するとともに、サハリン州からジャズバンドを招へいし、コンサートを実施。</p> <p>また、2014年(平成26年)にはユジノサハリンスク市のサハリン剣道連盟に所属する12名を受け入れ、稚内市内の剣道少年団との交流・稚内剣道連盟主催の各種行事へ参加。</p> <p>2015年(平成27年)には、サハリン州ネベリスク市の児童生徒芸術学校に所属する楽団を受け入れ、図書館や文化センター等でヴァイオリンの演奏会を開催。</p>
北海道柔道連盟、北海道柔道整復師会	<p>2001年(平成13年)から、北海道柔道連盟とサハリン州政府スポーツ局(現在のスポーツ委員会)、サハリン州柔道・サンボ協会との間の協定に基づき交流団の相互訪問が行われてきたが、2005年(平成17年)には、これに北海道柔道整復師会が加わり、4者間協定による交流を実施。</p> <p>なお、2016年(平成28年)9月、講道館柔道創設者嘉納治五郎師範サハリン州来島記念柔道大会がユジノサハリンスク市で開催。また、同年12月16日、プーチン大統領訪日の際、東京の講道館を訪問し、北海道柔道連盟と交流。</p>
北海道いけ花連盟	<p>2000年始めから草の根的な交流を開始し、2015年(平成27年)には、サハリン州政府主催の「第6回国際花卉・生花・景観デザインフェスティバル」等に参加。</p>

第3章 北海道とロシアの交流

	2016年(平成28年)8月15～16日にはサハリン州を訪問し、生け花ショーなどを開催。
わっかない観光活性化促進協議会(一社) 稚内観光協会)	例年、サハリンからアンサンブル「ルースキー・テーレム」を招聘し、稚内市において約1ヶ月の期間、公演を実施。

(3) 学術交流

医療交流

近年、ロシア国内の社会・経済の安定が進む中で、極東地域を中心にシンポジウムや医療研修などの医療交流が着実に進展してきている。

(学術交流)

年	月	主な取組
2014年度 (平成26年度)	10月	サハリン州政府が日本をはじめ、各国からがんの専門医師を招へいし「腫瘍学の時事問題に関する国際会議」を開催。シンポジウムが行われた。道では、道内3医育大学(北海道大学、札幌医科大学、北海道医療大学)及び、民間医療法人の専門家からなる訪問団を派遣し、最新のがんに関するプレゼンテーションを実施。
	10月	北海道大学病院が、ウラジオストク、ハバロフスク及びユジノサハリンスクに「北海道大学病院極東医療ミッション」を派遣。ロシア極東地域の医療機関等との「医療技術の向上」に向けた連携促進のため、現地医療機関の視察や現地専門家との意見交換を実施。
	11月 ～ 12月	道が「ロシア極東地域健康関連分野交流人材育成事業」の一環として北海道医療大学とともに現地プロモーション団をハバロフスク地方、サハリン州、沿海地方に派遣し、歯科・口腔医療・リハビリテーション分野での医療交流の開始に向け、プロモーションや意見交換を実施。
	1月	道が「ロシア極東地域健康関連分野交流人材育成事業」の一環として、北海道とロシア極東地域との「医療技術の向上」に資する交流を促進するために、サハリン州から健康・医療関係者を招へいし、道内医育大学や民間医療機関の視察、今後の両地域の協力の可能性について意見交換を実施。
	2月 ～ 3月	道がサハリン州立病院医師を招へいし、1ヶ月間、札幌禎心会病院において医療研修を実施。

第3章 北海道とロシアの交流

2015年度 (平成27年度)	9月 ~ 12月	9月にリハビリテーション分野に係る協力関係の可能性を協議するため、北海道医療大学教員らがサハリン州を訪問。12月には、サハリンから歯科医師や技工士らを招へいし、大学内において歯科技工士研修を実施。
2016年度 (平成28年度)	10月	北海道大学病院、札幌医科大学附属病院、サハリン州立病院・サハリン州立がんディスプレイの日露公立病院4者による初の「北海道・サハリン州がんシンポジウム」が北海道大学医学部大ホールにて開催。
2017年度 (平成29年度)	7月	北海道医療大学が、国立極東総合医療大学と共催で、合同医療シンポジウムを開催。
	8月	旭川医科大学長がサハリンを訪問。
	10月	札幌禎心会病院長がサハリンを訪問し、医療セミナーを実施。
	11月	北海道医療大学が、医療従事者職能研修機関(ハバロフスク)との交流協定を締結。
	11月	北海道医療大学長がハバロフスクを訪問し、胃がんセミナーを実施。
2018年 (平成30年度)	6月	北海道医療大学と「医療従事者職能向上研修機関」の共催により、「第2回北海道ハバロフスク合同医療シンポジウム」がハバロフスク市内にて開催。
	11月	札幌禎心会病院院長がモスクワを訪問。
	2月	モスクワ州立学術臨床研究所(MONIKI)が来道し、札幌禎心会病院と国際医療提携に合意したほか、北海道大学病院の視察を実施。
2019年度 (令和元年度)	7月	「第3回北海道ハバロフスク合同医療シンポジウム」が、北海道医療大学と「医療従事者職能向上研修機関」等との共催により、北海道医療大学(当別)にて開催。
	11月	サハリン州保健大臣が来道し、道と意見交換を行ったほか、道内の医育大学や医療機関を訪問。

第3章 北海道とロシアの交流

博物館交流

北海道博物館が1990年度（平成2年度）（当時は北海道開拓記念館）から、サハリン州郷土博物館（ユジノサハリンスク市）ほか、各国の博物館・研究機関等との学术交流・共同研究を開始。以来5か年を単位として様々な分野の学芸員が共同研究を実施している。

年	月	主な取組
1990年度 (平成2年度) ～ 1999年度 (平成11年度)		「北海道とロシア極東地域との交流の歴史を語る学术交流」として、北海道開拓記念館とハバロフスク地方及びサハリン州の郷土博物館、ロシア連邦科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史・考古・民族学研究所（沿海地方）が交流。
2000年度 (平成12年度) ～ 2009年 (平成21年度)		「北方文化共同研究事業」として、北海道開拓記念館とサハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館（アルバータ州立博物館を改称、カナダ）、黒竜江省文化庁（中国）が交流。
2010年度 (平成22年度)		「北方地域の人と環境の関係史についての研究」をテーマとした第5次の共同研究事業がスタート。同年には職員2名を派遣し、サハリン州郷土博物館と5か年の共同研究実施について協定書を締結。
2011年度 (平成23年度)	9月	サハリン州郷土博物館から2名の研究者を招へいし、道内に残るサハリン先住民の関係資料及び北海道の昆虫に関する共同調査を実施。
2012年度 (平成24年度)	7月	サハリン州郷土博物館を通じて、学芸員2名を派遣し、ユジノサハリンスク市、ネベリスク市、ポロナイスク市、ノグリキ市、オハ市をまわりサハリン州の昆虫に関する調査を実施。
2013年度 (平成25年度)	7月	サハリン州郷土博物館から2名の研究者を招へいし、戦前期の樺太で活動した画家木村捷司の作品及び道内博物館等の古生物コレクション・樺太アイヌ資料コレクションの共同調査を実施。
2014年度 (平成26年度)	8月	サハリン州郷土博物館を通じて、学芸員2名を派遣し、モネロン島、オホーツコエ、シネゴルスク、ヴズモーリエほかの森林や海岸で、サハリンの昆虫および漂着貝類に関する調査を実施。
2015年度 (平成27年度)	2月	第6次の共同研究事業がスタートし、職員3名を派遣。サハリン州郷土博物館と新たな5か年の共同研究実施について協定書を締結。研究テーマは「北海道とサハリン：共通点と特殊性」。
2016年度 (平成28年度)	10月	サハリン州郷土博物館から2名の研究者を招へいし、道内博物館において鯨漁を中心に水産業および考古学関係の博物館資料、展示方法等の共同調査を実施。

第3章 北海道とロシアの交流

2017年度 (平成29年度)	8月	北海道博物館より2名の研究者を派遣し、サハリン南部各地の海岸および山地で、漂着貝類相やナキウサギの分布等についてサハリン州郷土博物館と共同調査を実施。
2018年度 (平成30年度)	8月	サハリン州郷土博物館から2名の研究者を招へいし、昆虫の共同調査を実施。
2019年度 (令和元年度)	10月	北海道博物館より2名の研究者を派遣し、日本領期の建造物の現状調査と、渡り鳥と湿地の生物学的な調査をサハリン州郷土博物館と共同で実施。

歴史的・文化的遺産交流

2008年(平成20年)11月に老朽化が進みつつある日本統治下樺太時代の史跡・文化遺産の保存・修復のため、北海道大学の2名の専門家がサハリン州を訪問し、日露共同で現地調査やシンポジウムを開催した。

2009年(平成21年)10月、道ではこの取組のフォローアップとして、サハリン州文化遺産保存行政関係者やサハリン国立総合大学関係者数名を道内に招へいし、北海道における歴史的建造物の保存・活用の現状視察、第2回目のシンポジウム開催、北海道教育庁との意見交換等を行った。

また、北海道立北方民族博物館では、次のようにロシア極東地域の民族・文化に関する様々な事業を実施している。

年	月	主な取組
2005年度 (平成17年度)		ロシア・サハ共和国の国立ヤクート北方民族歴史・文化博物館と学术交流に関する協定を締結。
	4月 ～ 6月	サハリン州ネベリスクにおいて、サハリン州郷土博物館と共催で「写真展 忘れられた歴史のページ 20世紀サハリン先住民の暮らし」を開催。サハリン州郷土博物館と北海道立北方民族博物館所蔵の写真を持ち寄り、戦前・戦後のサハリン先住民の暮らしを紹介。
	7月 ～ 10月	ロシアのアムール地方をテーマとした特別展「森と川の精霊とともにロシア・アムール地方のアート&クラフト」を開催。ロシア・アムール川流域に暮らししてきた民族が、生活の中から作りだしてきた、洗練された形やデザインを持った道具や、よりアートの部分が強調された作品を紹介。
2016年度 (平成28年度)	5月 ～ 7月	「サハ共和国からのおくりもの 針生幸子寄贈コレクションより」を開催。ロシア語通訳の針生幸子氏がロシア・サハ共和国と30年以上にわたり交流してきた中で贈られたお土産品・記念品を展示し、ロシア・サハ共和国の工芸品や土産・贈り物の文化について紹介。

第3章 北海道とロシアの交流

2017年度 (平成29年度)	10月	「北方民族文化シンポジウム網走 環北太平洋地域の伝統と文化2 アムール下流域・沿海地方」を開催。ロシアからの二名の発表者を含む研究者により、同地域の歴史や変遷、現状を総合的・学際的に検討。
	12月	「サハの伝説と昔話の世界 ナターリヤ・ネウストローエワ作品展」を開催。ロシア連邦サハ共和国出身のネウストローエワ氏の切り絵とイラストにより、サハの伝説や昔話を紹介し、会期中にはネウストローエワ氏による解説会、講習会も実施。
2018年度 (平成30年度)	6月	講座「東シベリアと日本の狩猟文化」、講習会「白樺樹皮のバスケット作り」を開催。
	10月	スピーカーにサハリン国立大学のA.ワシリエフスキー教授を招へいし、第33回北方民族文化シンポジウム「環太平洋地域の伝統と文化3カムチャツカ・千島列島」を開催。
	12月	ロビー展「ロシアのバッジコレクション」を開催し、ロシア・旧ソ連のバッジにより、ロシア文化を紹介。
2019年度 (令和元年度)	2月 ～ 4月	企画展「融ける大地：温暖化するシベリア・中央ヤクーチア」を開催し、ロシア連邦サハ共和国の温暖化の現状や文化を紹介。
	2月	講習会「サハの刺繍」を開催し、サハ出身のナターリヤ・ネウストローエワ氏から伝統的な刺繍について学習。
	3月	はくぶつかんクラブ「ロシア風ぎょうざペリメニづくり」を開催し、子供たちがロシアの食習慣について学習。

第3章 北海道とロシアの交流

教育交流（大学間等）

北海道と極東3地域における大学間の交流も盛んに行われている。

1991年(平成3年)、稚内北星学園大学とユジノサハリンスク教育大学が姉妹校提携を結び交換留学を実施したほか、北海道大学や東海大学札幌キャンパスとロシア極東国立総合大学（ウラジオストク市）との学術交流、室蘭工業大学と極東工科大学（ウラジオストク市）との学術交流が実施された。

1994年(平成6年)、日本で唯一のロシアの大学の分校として、ロシア極東連邦総合大学（旧：ロシア極東国立総合大学、ウラジオストク市）が函館校を開校した。正式なロシアの大学の日本校として文部科学省から指定され、現在、4年制のロシア地域学科と2年制のロシア語科を開設している。

2014年(平成26年)5月には、北海道と包括連携協定を締結している立命館大学が、サハリン国立総合大学との協力協定を締結したほか、北海道医療大学とロシア極東の大学との間で交流が開始された。また、同年9月、立命館慶祥中高(江別市)などを運営する学校法人立命館は、サハリン州教育省と教育分野の交流に向けた協力協定を締結し、両地域の学校間の生徒交流などが開始された。

道内協定締結大学一覧

北海道	ロシア
北海道大学	モスクワ国立大学、サハリン国立大学、極東連邦大学、ロシア科学アカデミー極東支部、イルクーツク大学、北東連邦大学、サンクトペテルブルク国立大学、太平洋国立大学、国立研究大学高等経済学院
北海道教育大学	ノボシビルスク国立教育大学、ヴィトウス・ベーリング記念カムチャツカ国立大学
室蘭工業大学	ニコラエフ無機化学研究所、極東連邦大学、ヨッヘ研究所
小樽商科大学	ロシア極東連邦総合大学、サハリン国立大学
札幌医科大学	サンクトペテルブルク国立大学
釧路公立大学	ユジノサハリンスク経済法律情報大学
札幌大学	北東連邦大学、サハリン国立大学、モスクワ国立大学
北海学園大学	ウラジーミル大学、シベリア交通大学、ノボシビルスク大学、サハリン大学
北海商科大学	国立ノボシビルスク大学、国立シベリア交通大学、サハリン国立大学
北海道医療大学	極東国立総合医科大学
北海道文教大学	サハリン国立大学
東海大学 (旧北海道東海大学)	サハリン国立大学、極東連邦大学、モスクワ国立大学
道都大学	サハリン国立大学、極東国立経済経営アカデミー
北斗文化学園	サハリン・カレッジ・オブ・サービス

第3章 北海道とロシアの交流

(教育交流(大学間等))

年	月	主な取組
2017年度 (平成29年度)	6月	札幌大学とサハリン国立総合大学が学術交流協定を締結。
	11月	北海道大学がロシアの各大学の専門家を招へいし、「日露青年フォーラム」を開催。(札幌市)
2018年度 (平成30年度)	5月	日露大学間交流として、第1回日露大学協会総会と日露学生フォーラムが札幌市内で開催。
	8月	札幌医科大学とサンクトペテルブルク国立大学が交流に向けた事務協議を開始することに合意。
	8月	立命館慶祥中学校・高等学校とサンクトペテルブルク第83番学校が教育分野の専門交流や業務経験の交換の拡大と深化に関する協定を締結。
	11月	立命館慶祥中学校・高等学校とサンクトペテルブルク第83番学校が生徒・教師の相互交流などについて合意。
	2月	北海道大学が「極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム(通称RJE3プログラム)」の総括シンポジウムを開催。
2019年度 (令和元年度)	9月	第2回日露大学協会総会と日露学生フォーラムがモスクワにて開催され、フォーラムでは両国の学生で意見交換を実施。
	9月	札幌厚別高等学校にユジノサハリンスク児童芸術学校の教員2名を招集し、ワークショップを実施。
	11月	札幌大谷大学の教師・学生がサンクトペテルブルク国立文化大学を訪問し、学生間交流に向けた意見交換等を実施。
	1月	北海道教育庁とサンクトペテルブルク市教育委員会が教育分野の協力に関する締結や生徒の総合派遣について協議。
	2月	北海道大学が日露の大学関係者を招集し、「ロシア語通訳・翻訳専門家育成に関する連絡会・意見交換会」を開催。

第3章 北海道とロシアの交流

4 姉妹都市交流

(1) 市町村とサハリン州との友好交流

道内市町村がサハリン州内の市町村との間で姉妹友好提携を結んだのは、1967年(昭和42年)の旭川市とユジノサハリンスク市が最初であり、以降道内では15市町村19組にのぼる。1996年から2005年までは「姉妹友好都市代表者会議」を毎年相互に開催していた。

友好交流分野では、姉妹友好提携都市間で、訪問団の相互訪問や青少年等の派遣・受入などを行っている。

(主な友好・親善交流)

市町村	主な取組
旭川市	<p>1998年度(平成10年度)からユジノサハリンスク市立病院との間で医師派遣・受入事業を行っている。</p> <p>2009年(平成21年)に、友好都市のユジノサハリンスクの建設業関連の専門家を講師として招へいし、サハリン州のビジネス情報を提供するセミナーを開催したほか、サハリン建設業協会と旭川の建設業協会等の建設関連4団体との間で、技術協力や情報交換など交流を内容とする合意書を締結した。2010年(平成22年)には、旭川の建設業協会の一行がサハリン州を訪問し、寒冷地住宅技術のPRを行うとともに、ユジノサハリンスクの建設業者2社と行政関係者を招へいし、旭川の建設関連業者との商談会を開催した。</p> <p>2016年(平成28年)5月、ユジノサハリンスク市長を招へいし、旭川市長はナドサージン・ユジノサハリンスク市長へ「国際親善名誉市民」の称号を贈呈した。</p> <p>ユジノサハリンスク市との姉妹都市提携50周年を迎える2017年(平成29年)10月には代表訪問団が訪問し、西川市長が「ユジノサハリンスク市名誉市民称号」を受けたほか、サハリン経済交流促進協議会(事務局:旭川市)が、「ユジノサハリンスク道北物産展2017」を開催し、道北9市(旭川市、稚内市、留萌市、紋別市、士別市、名寄市、芦別市、深川市、富良野市)の食品等の販売・PRを実施した(道も本行事に連携してブースを出展)。</p> <p>2019年(令和元年)3月には、旭川市青少年スキー交流訪問団をユジノサハリンスク市に派遣した。</p>
稚内市	<p>2008年(平成20年)に、稚内・コルサコフ間定期航路日本船就航10年を記念し、稚内市メモリアル事業の一環として、稚内市民がサハリン州を訪れ琴の公演を行うなど、各友好都市(ユジノサハリンスク市、コルサコフ市、ネベリスク市)との交流を行ったほか、2010年(平成22年)には、稚内市日口友好会館30周年記念行事として「友好都市アンサンブルジョイント公演」等を開催した。</p> <p>2009年(平成21年)には、友好都市3市から卓球の代表選手15名を迎えて、</p>

第3章 北海道とロシアの交流

	<p>国際親善大会を開催し、翌2010年(平成22年)には、サハリン州の女子児童・生徒によるバレーボールチームが、稚内市内の中学校のチームと親善試合を行った。</p> <p>経済交流分野では、2002年(平成14年)5月、稚内市は、ユジノサハリンスク市に稚内サハリン事務所を開設し、2004年(平成16年)と2005年(平成17年)には、ユジノサハリンスク市で、商品の見本展示や商談会を実施した。2008年(平成20年)、稚内市において友好都市3市や州政府等とで初めて「友好都市経済交流促進会議」を開催し、以降毎年開催している。</p> <p>第8回：2015年(平成27年) ユジノサハリンスク市 第9回：2016年(平成28年) 稚内市 第10回：2017年(平成29年) ネベリスク市 第11回：2018年(平成30年) 稚内市 第12回：2019年(令和元年) コルサコフ市</p>
札幌市	<p>1990年(平成2年)6月、札幌市とノボシビルスク州ノボシビルスク市との間で、姉妹都市提携を締結し、両市の交流が開始された。</p> <p>2015年(平成27年)は、提携25周年を記念し、記念式典・祝賀会を開催した。</p> <p>2016年(平成28年)7月4日札幌市主催の「第17回世界冬の年市長会議」にノボシビルスク副市長が参加した。</p> <p>2018年(平成30年)2月、札幌市とノボシビルスク市の合同で、「サッポロ・ビジネス・レセプション in ノボシビルスク」を開催した。</p>
名寄市	<p>1991年(平成3年)に友好都市提携をして以来、名寄・ドーリスク市友好委員会が中心となり相互訪問を継続している。</p> <p>2019年(令和元年)8月には、ドーリスク市代表団が来道した。</p>
小樽市	<p>2019年(令和元年)9月、小樽市長を団長とする訪問団がナホトカ市及びウラジオストク市を訪問した。</p>
函館市	<p>2017年(平成29年)9月、函館市とユジノサハリンスク地との姉妹都市提携20周年を記念し、函館市公式訪問団がユジノサハリンスク市を訪問した。</p> <p>2019年(令和元年)10月、ユジノサハリンスクの柔道代表団を受入れた。</p>
東川町	<p>2019年(令和元年)9月、アニワ市代表団が東川町を訪問した際に、姉妹友好提携を締結。</p> <p>2020年(令和2年)1月には、東川町の小学生がアニワ市のスキー大会に参加した。</p>

第3章 北海道とロシアの交流

(2) 道内の姉妹友好提携道内市町村一覧

州・地方名等	提携先	市町村名	提携年月日
サハリン州	ユジノサハリンスク市	旭川市	1967年(昭和42年)11月10日
		函館市	1997年(平成9年)9月27日
		稚内市	2001年(平成13年)9月9日
	ポロナイスク市	北見市	1972年(昭和47年)8月13日
	ネベリスク市	稚内市	1972年(昭和47年)9月8日
	ホルムスク市	釧路市	1975年(昭和50年)8月27日
	オジョルスキ-村	猿払村	1990年(平成2年)12月25日
	コルサコフ市	紋別市	1991年(平成3年)1月12日
		稚内市	1991年(平成3年)7月2日
	ドリンスク市	名寄市	1991年(平成3年)3月25日
	トマリ市	天塩町	1992年(平成4年)7月28日
	セベロクリリスク市	根室市	1994年(平成6年)1月27日
アニワ市	東川町	2019年(令和元年)9月18日	
沿海地方	ナホトカ市	小樽市	1966年(昭和41年)9月12日
	ウラジオストク市	函館市	1992年(平成4年)7月28日
ハバロフスク地方	ワニノ市	石狩市	1993年(平成5年)6月3日
カムチャツカ州	ペトパブロフスク・カムチャツキ-市	釧路市	1998年(平成10年)8月25日
ノボシビルスク州	ノボシビルスク市	札幌市	1990年(平成2年)6月13日
ブリヤート共和国	ウラン・ウデ市	留萌市	1972年(昭和47年)7月5日

(道内15市町村19組)

釧路市とペトパブロフスク・カムチャツキ-市は、港町友好都市の提携

第3章 北海道とロシアの交流

5 議会交流

1992年(平成4年)8月、外務省招待により訪日したサハリン州議会議長が北海道議会議長表敬の際に議員交流の提案を行った(1991年(平成3年))ことを契機に、道議会議長等13名の代表団が第1回議員交流としてサハリン州を訪問し、両議会議員の相互交流に関する合意書に両議長が署名し、議員交流が始まった。



北海道議会議員団のサハリン州訪問(2019)

年	月	主な取組
1997年度 (平成9年度)	12月	北海道議会に「北海道・サハリン州交流促進北海道議会議員連盟」が設立され、さらに1998年(平成10年)6月、北海道議会において「北海道とロシア連邦・サハリン州との友好・経済協力促進に関する決議」が全会一致で議決。
2000年度 (平成12年度)	5月	北海道議会は議長を団長としたサハリン州訪問団を派遣し、サハリン州議会との間で「北海道議会(日本)とサハリン州議会(ロシア)の協力に関する協定」に調印、以後、交互に両地域を訪問し両議会の友好・協力関係を深めている。
2010年度 (平成22年度)	5月	石井議長を団長とする道議会議員団14名がサハリン州を訪問。
2011年度 (平成23年度)	7月	キスリツイン副議長を代表とする10名のサハリン州議会代表団が来道。
2012年度 (平成24年度)	5月	喜多議長を代表とする道議会議員団13名がサハリン州議会を訪問。
2013年度 (平成25年度)	6月	エフレーモフ議長を代表とする10名のサハリン州議会代表団が来道。
	11月	サハリン州経済ミッションの団員として、エフレーモフ議長ほか計6名のサハリン州議会議員が来道し、道議会を訪問。
	2月	「北海道フードフェア」開催の際、キスリツイン副議長が来道し、道議会を訪問。
2014年度 (平成26年度)	5月	木村副議長を代表とする道議会議員団14名がサハリン州議会を訪問。
	6月	加藤議長が、高橋知事を団長とする「ロシア沿海地方・北海道経済ミッション」とともにウラジオストク市を訪問し、沿海地方議会議長と面談。
2015年度 (平成27年度)	7月	キスリツイン副議長を代表とする10名のサハリン州議会代表団が来道。
2016年度 (平成28年度)	5月	遠藤議長を代表とする道議会議員団15名がサハリン州議会を訪問。

第3章 北海道とロシアの交流

2017年度 (平成29年度)	7月	エフレーモフ議長を代表とする12名のサハリン州議会代表団が来道。
2018年度 (平成30年度)	8月	「北海道150年式典」の参加のため、イワシヨフ副議長を代表とする3名のサハリン州議会代表団が来道し、道議会議員と面談。
	9月	大谷議長を代表とする道議会議員代表団15名がサハリン州議会を訪問。
	10月	コルシュノワ議員ほか3名が友好提携20周年記念友好交流事業に参加のため来道し、道議会を訪問。
2019年度 (令和元年度)	7月	ハポチキン議長を代表とする15名のサハリン州議会代表団が来道。

第3章 北海道とロシアの交流

6 医療協力

(1) 傷病者等緊急受入れ

傷病者等緊急受入れは、1990年(平成2年)にサハリン州の火傷を負った少年(コンスタンチン君)を緊急患者として北海道に受け入れたことを契機に、これまでに極東の各地域から11名を受入れている。

	受入時年齢・性別	出身地	受入理由	受入期間	受入機関
1	3歳・男	サハリン州 ユジノサハリンスク市	火傷治療	平成2年8月 ～平成2年11月	札幌医科大学 医学部附属病院
2	12歳・男	カムチャッカ州 ペトパブ・ロシアカマチャキ市	火傷治療	平成2年11月 ～平成3年3月	札幌医科大学 医学部附属病院
3	11歳・男	サハリン州 ユジノサハリンスク市	火傷治療	平成3年9月 ～平成4年2月	札幌医科大学 医学部附属病院
4	28歳・女	サハリン州 ネベリスク市	火傷治療	平成4年5月 ～平成4年8月	札幌医科大学 医学部附属病院
5	11歳・男	サハリン州 オジョルスキー村	火傷治療	平成13年7月 ～平成13年12月	札幌医科大学 医学部附属病院
6	39歳・男	サハリン州 ユジノサハリンスク市	火傷治療	平成14年5月 (5.28死亡)	札幌医科大学 医学部附属病院
7	38歳・女	サハリン州 ユジノサハリンスク市	火傷治療	平成14年5月 ～平成14年9月	市立札幌病院 杏林大学医学部附属病院
8	13歳・男	サハリン州 オハ市	火傷治療	平成20年7月 ～平成20年10月	市立札幌病院
9	12歳・男	サハリン州 コルサコフ市	火傷治療	平成23年11月 ～平成23年12月	札幌医科大学 医学部附属病院
10	3歳・男	サハリン州 ウグレゴルスク市	重傷感染症	平成24年8月 ～平成24年9月	札幌医科大学 医学部附属病院
11	3歳・女	サハリン州 ユジノサハリンスク市	髄膜炎	平成28年3月 ～平成28年7月	札幌医科大学 医学部附属病院

(2) 「公益信託北海道・ロシア極東医療交流基金」

サハリン州からコンスタンチン君を受け入れた際に全国から寄せられた見舞金と北海道の出資金により、1992年(平成4年)に「公益信託北海道・ロシア極東医療交流基金」を開設し、北海道内の医療機関にサハリン州の医師を受け入れ、研修を行うなどの交流事業を実施。同基金により、平成27年度までにサハリン州の医師45名を受け入れている。

平成28年には、北海道大学病院・札幌医科大学附属病院、サハリン州立病院、サハリン州がんディスペンサリーの日露の公的医療機関4者による「がんシンポジウム」が北海道大学医学部ホールにおいて開催された。